

JCI-TC131A 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会
第5回 研究委員会 議事録(案)

■日時：2014年5月14日(水) 13:00～17:00

■場所：(公社)日本コンクリート工学会第5会議室
(東京都千代田区麹町 1-7 相互半蔵門ビル 11F)

■資料：5-0 第5回委員会議事次第

5-1 第4回委員会(2014.2.7)議事録(案)

5-2 第1回幹事会(2014.4.18)議事録(案)

5-3 委員名簿

5-4 品質性能WG報告書

5-5 製品WG報告書目次案について

5-6 現場WG 用途別性能設計

5-7 性能設計WG活動計画(案)

5-8 製造・施工標準WG活動計画(案)

5-9 品質管理および維持管理(品質保証体制)WG活動計画(案)

■出席者：畑中、岡本、梶尾、国枝、平岩、三島、浅野、伊神、伊藤、加形、木村、杵本、高山、玉井、
鶴田、成田、麓、高田 以上18名

■記録：平岩

■議事：

1. 委員長挨拶

- ・畑中委員長より、今後の計画として、2013年度のWGは終了して、2014年度はWGを組み替えて施工標準、品質保証体制について検討していくWGを作るとの説明があった。
- ・施工標準の作成にあたって、作成のイメージとして建築なら標準仕様書、土木ではコンクリート示方書のような形を考えているとの説明があった。

2. 前回議事録(案)確認

- ・梶尾幹事長より資料5-1に基づいて説明があり、了承された。

3. 幹事会議事録(案)確認

- ・梶尾幹事長より資料5-2に基づいて説明があった。
- ・最終報告書のII部となるWGについての説明があった。
これについては、本会議の審議事項として後ほど審議を行うとの説明があった。
今後ポーラスコンクリートを広めていく方法などについても議論があればよいのでは、という意見があった。

4. 2013年度成果の確認について

- ・最終報告書[第I部] 各WGの進捗状況について報告があった。

- ・2章 品質・性能 WG (研究動向, 代理: 平岩)
 - ・平岩より資料 5-4 に基づいて説明があった。
 - ・既往の文献の整理という形でまとめており、クロスチェックもほぼ終了して、大体完成しているとの報告であった。
 - ・2014 年度の議論の資料として、委員が使える形にできるように HP に pdf の形で置いてはどうかという意見があり、行っていくこととした。
- ・3章 製品 WG (製品の現状と課題, 國枝 WG リーダー)
 - ・國枝幹事より資料 5-5 に基づいて報告があった。
 - ・本文は未完成であるが、中間シンポジウムでの内容をまとめる予定であるとの報告があった。
 - ・ポーラスコンクリートに要求される性能は製品も現場もほぼ同じであるため、それがまとまっている 4 の現場 WG の内容を先にして 3 の製品 WG と入れ替えてはどうかとの提案があり、了承された。
 - ・現状で困っている点を示し、それを II 部で回答する形にしてはどうかとの提案があった。
- ・4章 現場 WG (用途別性能設計の事例, 梶尾 WG リーダー)
 - ・梶尾幹事長より資料 5-6 に基づいて報告があった。
 - ・本文はまとめ等が一部未完成であるが、クロスチェックを終えているものもあり、あと少しで完成するとの報告があった。
 - ・留意点だと注意すればよい点という印象なので、課題としてまとめてはどうかという意見があった。

5. 2014 年度の活動計画について

- ・各 WG の設置および活動 (案) の説明があった。
- ・性能設計 WG (國枝 WG リーダー)
 - ・國枝幹事より資料 5-7 に基づいて説明があった。
 - ・標準的な設計方法についてはこちらの WG の担当か製造・施工 WG の担当かとの議論があり、これについては、製造・施工 WG と相談しながら行っていくこととなった。
- ・製造・施工標準 WG (岡本 WG リーダー)
 - ・岡本副委員長より資料 5-8 に基づいて説明があった。
 - ・あまりハードルを高くすると施工できる会社が少なくなるので、それも配慮して作成してほしいとの意見があった。
- ・品質保証 WG (三島 WG リーダー)
 - ・三島幹事より資料 5-9 に基づいて説明があった。
 - ・供試体採取方法について、コア採取時に強度が低下するかどうかの議論があった。何層で打つかによる変化や、コア採取時の損傷、ペースト分の厚みが位置によって変化する、などにより強度が変化する可能性があるのではないかと意見があった。
 - ・凍害については、スケーリングを含むか、凍結融解のみとするかとの質問があり、広い範囲で検討していく予定であるとの説明があった。
 - ・生コンポーラスの製造者側の品質管理として円柱供試体による方法は必要ではないかと意見があった。

- ・生コンポーラスの受け入れ検査は、施工者側が行うものとして必要との意見があった。
- ・簡易検査として現場でできるものがあると良いのではとの意見があった。

6. 今後のスケジュールについて

次回：6月18日 JCI 会議室 WG ごと：13～16時 全体委員会：16～18時

以降：9/18 13時～、12/19 13時～